月	日	経過時間	附水			
			混合割合	比重	水温	容量
30April 1may	14h 30m 6h 30m	16h	海水 2 淡水 1	17.4425	13.75C°	594
〃 4〃	6h 〃	71h30m	海水のみ	20.75	23.0	198
〃 〃	6h 〃 30m	20m	〃	12.982	21.9	396
〃 8	6h 〃 30m	96h10m	食塩添加	22.51	21.9	396

上記の表から見ても明かなように、比重値17.4425の時19時間、20.75の時71時間、12.98の時20分、22.51の時96時間、合計187時間（延9日）も鹹度の高い塩水の中に入れても呼吸動作も初めから終りまで何ら変つた事が認められなかつた。

唯体色が幾分褪色したがこれは容器の色が銀色で透明な水の中にあつたので保護色を呈したものと思料される。

4. 考　　察

今回は予備実験で小さい容器中でしかも室内の実験で、今後長期に飼育して生殖関係まで調査の上でなければ確かな事は云へないが、実験の状況から推しても沿海地帯にある淡鹹混交の水面にその飼育にも期待され、ひいては養殖面積の拡大となり、若し之が鰻飼料に使えるとなれば飼料不足の緩和にも一役を果し得るものと思はれる。

稚鰻の溯上調査

1. 目　　的

戦後沖縄に於ける鰻の需要は年々増加しつゝある模様である。然しかながら消費されている大部分は日本から輸入されているものである。従つて若し沖縄で生産出来れば沖縄外への円の流失を防ぐばかりでなく、一般向嗜好食品として廣く賞味され得るものと考へられる。処が従来沖縄に於ける稚鰻についての記録も全然なく不明の儘であつた。此の為養鰻事業の基礎調査として稚鰻の河川溯上調査を実施し之が時期と量を確める事にした。

2. 経　　過

此の調査は昨年(1955年2月)から実施した。先づ羽地村の源河川、屋部村の白銀橋附近と其の下流を調査したが発見出来ず、附近の住民や漁民に聞いても不明であつた。源河川では旧3月頃、ハゼの一種が溯上するのに稚鰻らしいものが混つて採れるものであるが、稚鰻であるかどうか不明であるとの事であつたからその時期には

通知する様依頼したが、其の後之れが通知を受けていない。

上記の調査と同時に市町村駐在の水産技術員に依頼してあつた処、八雲山大浜町宮良川で3月頃見た人がある事と、後志倉村では直接見たと云う2件の報告を受けた。

上述の通り昨年は遂に発見出来なかつたが本年（1956年）2月23日寿都郡町愛冬園下の小川から5糎位の種鰌1尾を捕えたので、同日佐敷村馬天区の小川や寿都郡当別区北側の小川でも夫々発見する事が出来た。之で種鰌頃上の時期が大体今期前後と云う事が判明した。

以上で大体時期が判明したので、量的に採捕出来るかどうかと西原村兼久区の小川で調査を実施し、量的にも養殖必要量の確保は大体心配ない事が判つた。兼久川で採捕した状況は次の通りである。

3. 状　　況

a. 採捕場所

西原村兼久川（仮称）下流堰下

b. 堰は水田灌漑用であつて、巾約3間、落差約2尺、水深約5寸～1尺位である。

c. 川の状況

西原村西方の高地に源を発し殆んど直線状に流れ兼久部落の北を通り、13號道路を横断し中城湾に注いでいる。此の小川は敵侵米軍に依つて改造されたものとの事である。堰は道路より下流にあり、堰より上流は泥質で堰より下流は砂や礫質である。水面幅員は3～9尺位。

d. 種鰌採取の状況

番号	採捕月日	大きさ 巾さ	大きさ 長さ	大きさ 高さ	大きさ はば	採捕量	水温 時間	水温 水温	備考
	1956. 2. 28	—	50.0粍			上流部 1尾 在 後 1尾	14h	17.3°C	大きさは2尾平均
1	1956. 3. 18	0.15尺	50.9粍			兼久 50尾	午前2時	20.2〃	同上 5 尾
2	1956. 3. 29	0.2 〃	60.4〃			兼久 20尾	13h	23.5〃	同上 3 尾
3	1956. 4. 26	1.0 〃	130.0〃	6.81粍	5.56粍	49	15h	27.5〃	
	1956. 5. 21					11			

e. 説　　明

3月18日夜間の調査では川底を游泳するもの、川底の水苔の下に潜むものがあるが、多くは堰の落水下潮上しようと集つている。

3月29日には夜間採取を試みたもので、夜間は川底の水苔の下や、砂の上部層にひそんでいる。

4月26日も夜間採取したが体の成長が大きく、砂の底部に多くひそんでいる。